

教科担任部会 研究のまとめ

学習指導について

□ 成果

- 一単位時間の授業をより計画的に進めようとする意識が強まってきている
- 教師の得意な教科を教えることができ、自信を持って指導に当たることができた
- 指導教科が少ないため、教材研究にける時間を十分に確保することができた
- 繰り返し同じ授業を行うことで、授業の改善点が分かり、指導力の向上や専門性を深めることに結びついた
- 以前よりも教科の評価規準を意識して指導に当たることができるようになった
- 自分の授業を振り返る時間的なゆとりが生まれた
- 児童の実態に応じて、発問の仕方や資料提示のタイミングを変えていく必要性を学んだ

■ 今後の課題

- 日によって宿題が極端に多くならないように配慮する
- 国語の単元が総合と重複したりするので、総合と国語を合わせて指導すれなど、より効果的な方法を模索する必要がある
- 年間を見据えて、指導計画を教科同士関連づけて立てていかなければならない
- 図工などはまとめて時間をとった方がよい単元があるので、授業の柔軟な運用が必要である
- 各教科の児童の学力の変容について、把握する方法を検討する必要がある

児童理解について

□ 成果

- スタッフの情報交換を通して、学級担任だけでは見えなかった子どもの様々な面が分かるようになった
- 担任外の教師が子どもたちを理解しようと努めた結果、担任だけでなくいろいろな教師と気兼ねなく話ができる子が増えてきた
- 問題行動が起きたときなどに、複数の教師により子どもを多面的に理解することで指導に役立てることができた
- 各担当者同士で連携を図りながら子供の指導に当たることができた
- 学級担任と同様に学年担任の意識を持てるようになった

■ 今後の課題

- 子どもたちの様子をより詳しく把握できるように工夫していきたい
- 問題が起きたときに、即学級指導（個人指導）が必要になる場合があるが、それができず後手になるときがあった

教師集団について

□ 成果

- 共通理解や連帯感を図ろうとする意識が一層高まってきている
- 他のクラスの学級経営のよさを見いだすことができ、自分のクラスの学級経営を改善するきっかけになった

■ 今後の課題

- 出張や年休などで授業ができない場合の対処の方法についての工夫が必要である

その他

- 時間割に融通がきかないため、各行事に向けての調整が必要である
- 今ある特別教室の割り当てを一新し、6年生の時間割を優先的に決め、残った部分を各学年に配当してはどうか
- 総合の中で「環境」を扱うとすると内容の関連で理科担当が何時間かを受け持っても良いのではないかと（指導計画 2～3月分を入れ替える）
- 小学校段階で教科担任制に適應できない子が確実にいることを念頭に置いて指導にあたらなければならない
- 空き時間があり有効活用ができた
- 中学校との連携を図る具体的な手立ての検討が必要だと思われる